

令和7年度 学校教育自己診断アンケートの結果について（報告）

このたびは学校教育自己診断アンケートの実施にあたり、保護者、児童生徒の皆様には多大なご協力をいただき、ありがとうございました。

今回のアンケート結果を以下のようにまとめました。今後の学校教育に活かせるよう、ご報告させていただきます。（割合については、四捨五入したものを合算したため、100%となっていない場合があります。）

1. 回答率（配付実施日：11/25～12/5）

	教職員	保護者	児童・生徒
肢体不自由部 小学部	100%	50%	24名
肢体不自由部 中学部	100%	66%	10名
肢体不自由部 高等部	100%	49%	11名
肢体不自由部 合計	100%	53%	45名
病弱部 小学部・中学部	100%	53%	20名

2. 児童生徒の結果

- ・昨年度に比べ、病弱部門の回答数が大幅に増加し、肢体不自由部門は微減となりました。
- ・「進路指導」に関する項目（4）については、一昨年度に保護者の質問項目と同様、質問の聞き方を変更し、小・中学部と高等部で質問を変えましたが、依然として「わからない」の回答がありました。日々の授業等で意識付けできるように取り組む必要があると考えます。

3. 保護者の結果

- ・保護者の回答数については、肢体不自由部門が昨年度より微減（72件→66件）であった一方、病弱部門は大幅に増加（5件→17件）しました。しかし、児童生徒の在籍期間が個々に異なるという実態を反映し、「わからない」とする回答が過半数を占める質問項目が複数（16項目中4項目）見られました。このことが、全体の数値に一定の影響を与えていると考えられます。
- ・また、全体の回答数はこの3年間で減少傾向にあります。学校運営のさらなる改善を図るためには、より多くの保護者からの評価や意見を得ることが不可欠であり、アンケート回収率の向上は今後の重要な課題です。
- ・「安全・安心な学校づくり」に関する項目（3）、「子どもの人権」に関する項目（4）、「いじめ」に関する項目（5）の3項目については、いずれも昨年度と比較して肯定的な評価が微増しています。特に「よくあてはまる」と回答した割合が、昨年度より10%以上増加しており、項目（3）および（4）では肯定的な回答が97%以上に達しました。これらの結果から、保護者にとって、子どもがより安心して登校できる学校環境が整いつつあることがうかがえます。
- ・一方で、病弱部門の「わからない」とする回答が多かったことについては、質問項目をより病弱部門に則したものに改良する必要があります。今後も引き続き学校での取り組みや教育活動について、より分かりやすく、かつ確実に保護者に届くよう、情報発信の工夫と充実を図ってまいります。

R7年度結果					
R6	←	R5	R6	←	R5
R7年	←	R6	←	R5(A+B合算)	

	診断内容	A		B		C	D	E		
		よくあてはまる		あてはまる		あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	わからない		
3	学校は、安全であり、子どもは安心して学校生活を送れている。	72.3%		26.5%		1.2%	0.0%	0.0%		
		61%	←	63%	36%	←	30%	1.3%	0.0%	1.3%
		98.8%	←	97.4%	←	92.9%	1.4%	0.0%	5.7%	
4	教職員は、日常の教育活動において、子どもの人権に配慮した言葉や態度で接している。	77.1%		20.5%		0.0%	0.0%	2.4%		
		64%	←	67%	34%	←	26%	0.0%	0.0%	2.6%
		97.6%	←	97.4%	←	92.8%	0.0%	0.0%	7.1%	
5	学校は、いじめ等、子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	54.2%		26.5%		0.0%	0.0%	19.3%		
		39%	←	54%	42%	←	29%	0.0%	0.0%	19.5%
		80.7%	←	80.6%	←	82.9%	0.0%	1.4%	15.7%	

4. 教職員の結果

- ・全体的に見て、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した肯定的意見が多く、昨年度と比較して全体として肯定的意見が微増傾向にありました。
- ・「仕事の効率化・スムーズな引継ぎ」「働き方改革」に関する項目（18）は、今年度の重点課題として取り上げた項目であり、今回の肯定的意見は75%と、昨年度より8%増加しています。昨年度から導入された Teams（インターネット共有システム）の利用が定着し、教員同士の連携が取りやすくなったことや、今年度途中に会議の議事録の様式や記録・回覧方法をスリム化したことが、要因の一つであると考えられます。
- ・「安全な環境づくり」に関する項目（29）の肯定的意見は93%で、昨年度より約6%増加しています。一昨年度の肯定的意見が55%であったのに対し、今回は2年間で大幅に増加しています。一昨年度途中から取り組み始めた毎月の安全点検が教職員全体に定着し、今年度も安全点検で発見した破損部分等について、一部を具体的に修理・改修できたことが、増加の要因であると考えられます。
- ・「原籍校との交流・Web交流会」に関する項目（31）は、肯定的な回答が82.3%で、昨年度より13.7%減少しています。その内訳を見ると、「よくあてはまる」の割合は増加している一方で、「わからない」の割合が10%以上増加しています。今年度、病弱部門では17名中7名の教員が新たに着任しており、昨年度に着任した教員を含めると、半数以上が入れ替わっているという現状が、その要因の一つであると考えられます。

	診断内容	A		B		C	D	E		
		よくあてはまる		あてはまる		あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	わからない		
18	「仕事のスリム化を行う」「仕事の時間を区切る」「仕事の仕方を変える」ために工夫・改善に取り組んでいる。(業務改善・スリム化事業、各部署における新規スリム化業務の提示・19時機械整備・ノー会議デイ設定等)	18.3%		56.7%		20.8%	1.7%	2.5%		
		14%	←	16%	53%	←	43%	23.5%	3.4%	5.9%
		75.0%	←	67%	←	59%	27.0%	6.0%	8.0%	
29	学校は、施設設備の点検・管理を日常的に行っている。	32.5%		60.8%		5.0%	0.0%	1.7%		
		22%	←	13%	65%	←	42%	8.4%	1.7%	3.4%
		93.3%	←	87%	←	55%	33.0%	2.0%	10.0%	
31	「原籍校との交流・Web交流会」が計画的に実践され、相互理解につながっている。(通信を含む) ※病弱部門のみ	58.8%		23.5%		5.9%	0.0%	11.8%		
		56%	←	42%	31%	←	53%	12.5%	0.0%	0.0%
		82.3%	←	96%	←	98%	1.0%	0.0%	3.0%	

アンケートにご協力いただき本当にありがとうございました。保護者の皆様には、今後ご理解とご協力の程よろしく申し上げます。